

事業の背景・概要

- 市内では、主にサル※・イノシシ・シカ・ハクビシン・カラスの被害が発生している。※市の被害金額のうち約5割を占める。
- 毎年、野菜、イモ類、稲を中心に農作物被害が頻発しており、農家の生産意欲の低下が懸念となっている。
- この状況を踏まえ、積極的な捕獲の実施やサルに対しては発信器の取り付けによる行動域の調査等による被害の軽減とICT機器を活用した被害防止対策の効率化、ジビエ価値の向上、消費者の安心の確保を図っている。
- この対策は、令和3年度、補助金を活用した。

取組内容

1 行動域調査を踏まえた被害防止対策(サル)、ICTの導入

- ・サルにテレメトリ発信器を取り付け行動域を調査、その結果を踏まえた対策の実施
⇒ 行動域調査に補助金(有害捕獲)を充当
- ・捕獲通知システムを導入したスマート捕獲
⇒ 補助金(ICT等新技術の活用)を充当



(行動域調査：GPS取付)

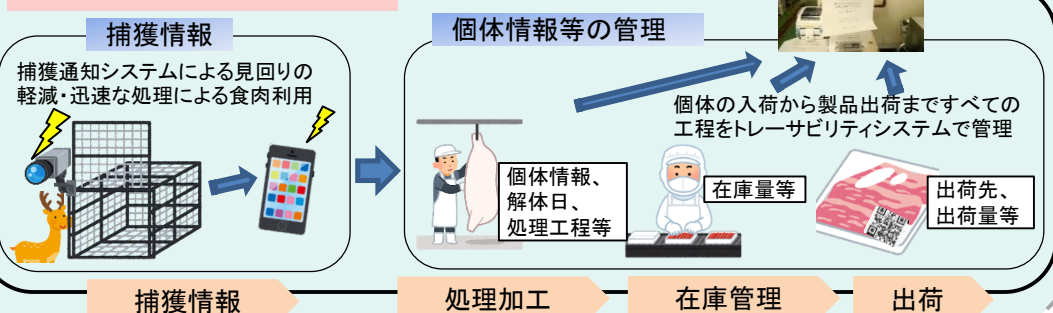


(捕獲通知システム)

2 国産ジビエ認証、処理加工施設情報管理システムの導入

- ・ジビエ処理加工施設の国産ジビエ認証取得中
⇒ 認証手数料に補助金(ジビエ等の利用拡大に向けた地域の取組)を充当
- ・ジビエ処理加工施設情報管理システムの導入
⇒ 補助金(ICTの活用による情報管理の効率化)を充当

ICTシステムの導入イメージ



成果

○ 行動域調査による効果的な被害防止対策(サル)とICTの導入による負担軽減及びジビエ価値の向上

- ・行動域調査を実施することで、サルに対する効果的な被害防止対策を実施し、被害が減少している。
- ・捕獲通知システムを導入したことで、見回りの手間と負担が軽減された。更に、ジビエに活用するシカは捕獲通知により迅速な処理が可能となり高品質なジビエの提供にも繋がっている。

○ ジビエに対する消費者の安心の確保

- ・ジビエ処理加工施設が国産ジビエ認証を受けることで、流通するジビエの安全性の向上と消費者の安心の確保に繋げる。
- ・個体情報トレーサビリティ・工程記録管理システムを導入したことで、処理加工や在庫等の情報管理が効率化されるとともに、捕獲加工情報を消費者に届けることにより、更なる消費者の安心確保に繋がっている。